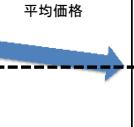
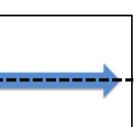
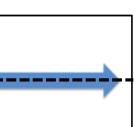
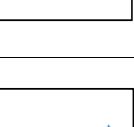
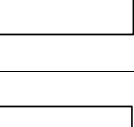
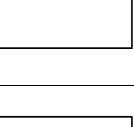
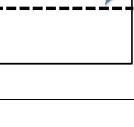
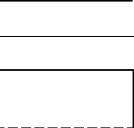
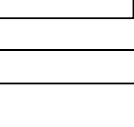
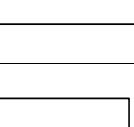
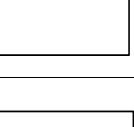
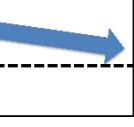
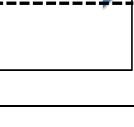
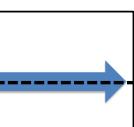
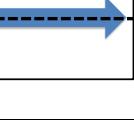
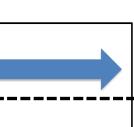


野菜の需給・価格動向レポート(平成29年2月13日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月の価格情報			2月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格					
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額												
		上旬	中旬	下旬										
葉茎菜類	キャベツ	96.86	99 (102%)	92 (95%)	99 (102%)	96.86	・8,711t (98%)	愛知(67), 千葉(15)						
		92.10	99 (107%)	89 (97%)	98 (106%)	92.10	・2,983t (82%)	愛知(57), 大阪(10), 兵庫(8)						
	たまねぎ	83.77	76 (91%)	78 (93%)	81 (97%)	83.77	・8,814t (117%)	北海道(84)						
		83.77	74 (88%)	79 (94%)	77 (92%)	83.77	・3,874t (139%)	北海道(80), 兵庫(12)						
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	347 (137%)	291 (115%)	248 (98%)	252.99	・2,443t (103%)	千葉(40), 埼玉(26), 群馬(13), 茨城(11)						
		473.04	536 (113%)	423 (89%)	418 (88%)	473.04	・190t (96%)	徳島(31), 三重(15), 高知(14), 香川(12)						
	はくさい	64.18	87 (136%)	85 (132%)	79 (123%)	64.18	・5,414t (90%)	茨城(67), 群馬(18)						
		68.70	99 (144%)	92 (134%)	86 (125%)	68.70	・2,045t (86%)	愛知(28), 茨城(22), 兵庫(18), 長崎(11)						
	ほうれんそう	338.43	452 (134%)	430 (127%)	473 (140%)	338.43	・989t (102%)	群馬(25), 茨城(25), 埼玉(21)						
		375.38	462 (123%)	463 (123%)	534 (142%)	375.38	・340t (88%)	徳島(38), 福岡(33), 群馬(11)						
果菜類	レタス (結球)	233.85	165 (71%)	186 (80%)	231 (99%)	233.85	・2,848t (94%)	静岡(33), 香川(12), 茨城(12), 兵庫(9)						
		226.75	162 (71%)	184 (81%)	230 (101%)	226.75	・769t (84%)	兵庫(41), 長崎(20), 徳島(18)						
	きゅうり	370.98	358 (97%)	374 (101%)	370 (100%)	370.98	・2,882t (106%)	宮崎(32), 千葉(20), 高知(18)						
		350.33	351 (100%)	350 (100%)	351 (100%)	350.33	・1,119t (100%)	宮崎(42), 高知(25), 徳島(17)						
	トマト (大玉)	349.23	381 (109%)	372 (107%)	374 (107%)	349.23	・2,668t (95%)	熊本(34), 栃木(19), 愛知(12)						
		326.61	373 (114%)	350 (107%)	355 (109%)	326.61	・864t (86%)	熊本(77)						
	なす	389.03	371 (95%)	403 (104%)	423 (109%)	389.03	・791t (97%)	高知(64), 福岡(16)						
		397.74	357 (90%)	399 (100%)	414 (104%)	397.74	・319t (110%)	高知(42), 熊本(26), 福岡(18)						
	ピーマン	578.80	464 (80%)	545 (94%)	584 (101%)	578.80	・641t (112%)	宮崎(43), 高知(21), 鹿児島(18)						
		565.30	377 (67%)	495 (88%)	551 (97%)	565.30	・375t (131%)	宮崎(47), 高知(24), 鹿児島(14)						
根菜類	だいこん	79.03	83 (105%)	69 (87%)	75 (95%)	79.03	・6,176t (96%)	神奈川(54), 千葉(32)						
		80.47	80 (99%)	67 (83%)	68 (85%)	80.47	・3,554t (102%)	長崎(33), 鹿児島(30), 徳島(21), 和歌山(13)						
	にんじん	111.16	137 (123%)	139 (125%)	139 (125%)	111.16	・4,172t (94%)	千葉(80)						
		109.97	119 (108%)	123 (112%)	125 (114%)	109.97	・1,141t (87%)	鹿児島(70), 愛知(14)						

注: 1 平均価格は、過去6年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発售するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月の価格情報			2月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格			
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額						上旬	中旬	下旬				
		228.85 (106%)	242 (99%)	226 (98%)	225 (98%)	228.85 (114%)	千葉 (34), 埼玉 (33)							
いも類	さといも	228.85 (106%)	242 (99%)	226 (98%)	225 (98%)	228.85 (114%)	千葉 (34), 埼玉 (33)		千葉産は、計画的出荷はあるが、年明け後も高い需要が続き、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は需要も落ち着くと見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、順調な生育となっており、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		219.65 (128%)	282 (108%)	237 (107%)	234 (107%)	219.65 (109%)	愛媛 (61), 宮崎 (21)		千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、需要が落ち着くと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。					
	ばれいしょ	96.99 (186%)	180 (186%)	180 (196%)	190 (196%)	96.99 (78%)	北海道 (59), 鹿児島 (30), 長崎 (10)		北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、順調な生育となっており、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		96.99 (176%)	171 (179%)	174 (185%)	179 (185%)	96.99 (77%)	北海道 (71), 鹿児島 (24)		鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。					

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	(参考)過去5カ年平均価格	1月の価格情報			2月 (参考)過去5カ年平均価格	1月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格		
		東京・大阪市場の旬別価格						上旬	中旬	下旬			
		385.82 (78%)	301 (110%)	425 (121%)	465	356.04	600t (89%)	愛知 (39), 香川 (21), 埼玉 (13)					
洋菜類	ブロッコリー	385.82 (78%)	301 (138%)	425 (137%)	465	356.04	600t (89%)	愛知 (39), 香川 (21), 埼玉 (13)		愛知産は、気温の低下により生育が緩慢となる時期ではあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、1月中旬の気温の低下がみられるものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。			
		417.58 (69%)	290 (102%)	427 (117%)	487	367.08	190t (88%)	徳島 (31), 長崎 (16), 香川 (14)		愛知産、香川産及び埼玉産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			
根菜類	ごぼう	318.13 (170%)	540 (138%)	440 (137%)	435	316.11	304t (110%)	青森 (70), 茨城 (12)		青森産は、12月に収穫が終わり、現在貯蔵物からの出荷となっているが、8月末の台風の影響により細物や短物など下等級品が見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		188.58 (154%)	291 (154%)	290 (157%)	297	196.38	201t (77%)	茨城 (41), 青森 (22)		青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。			
果菜類	かぶ	152.86 (109%)	166 (88%)	135 (96%)	147	143.42	392t (90%)	千葉 (88)		千葉産は、生育は順調であるものの、播種期の天候不順による生育遅れの影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。			
		137.79 (125%)	172 (91%)	126 (107%)	147	140.01	77t (70%)	徳島 (47), 福岡 (32)		千葉産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。

3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 野菜の輸出入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

貿易統計によると、12月の生鮮野菜の輸入量は7万8千トン（前年同月比123%）と、9月（同130%）、10月（同113%）、11月（同162%）と4カ月続けて前年を大幅に上回り、28年1～12月の輸入量は8万6万2千トン（同104%）となり、2年ぶりに前年を上回った。	1. 野菜の輸入数量											2. 野菜の輸出数量	
区分			平成26年		平成27年		平成28年12月		平成28年1月～12月				
区分			前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
生鮮野菜	884,735	104	826,845	93	78,144	123	862,416	104	5,596	74	31,867	139	
加工野菜	1,785,487	96	1,752,337	98	160,166	106	1,768,198	101	7,857	76	9,510	121	
野菜合計	2,670,222	99	2,579,182	97	238,310	111	2,630,614	102	17,429	88	32,502	186	
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,491	96	130,135	108	1,365,785	101	6,767	79	42,944	132	
中国産シェア	53		53		55		52						
1-1. 主な生鮮野菜の輸入先(平成28年12月)													
区分			輸入合計			1位			2位			(単位:トン、%)	
			前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	(単位:トン、%)	